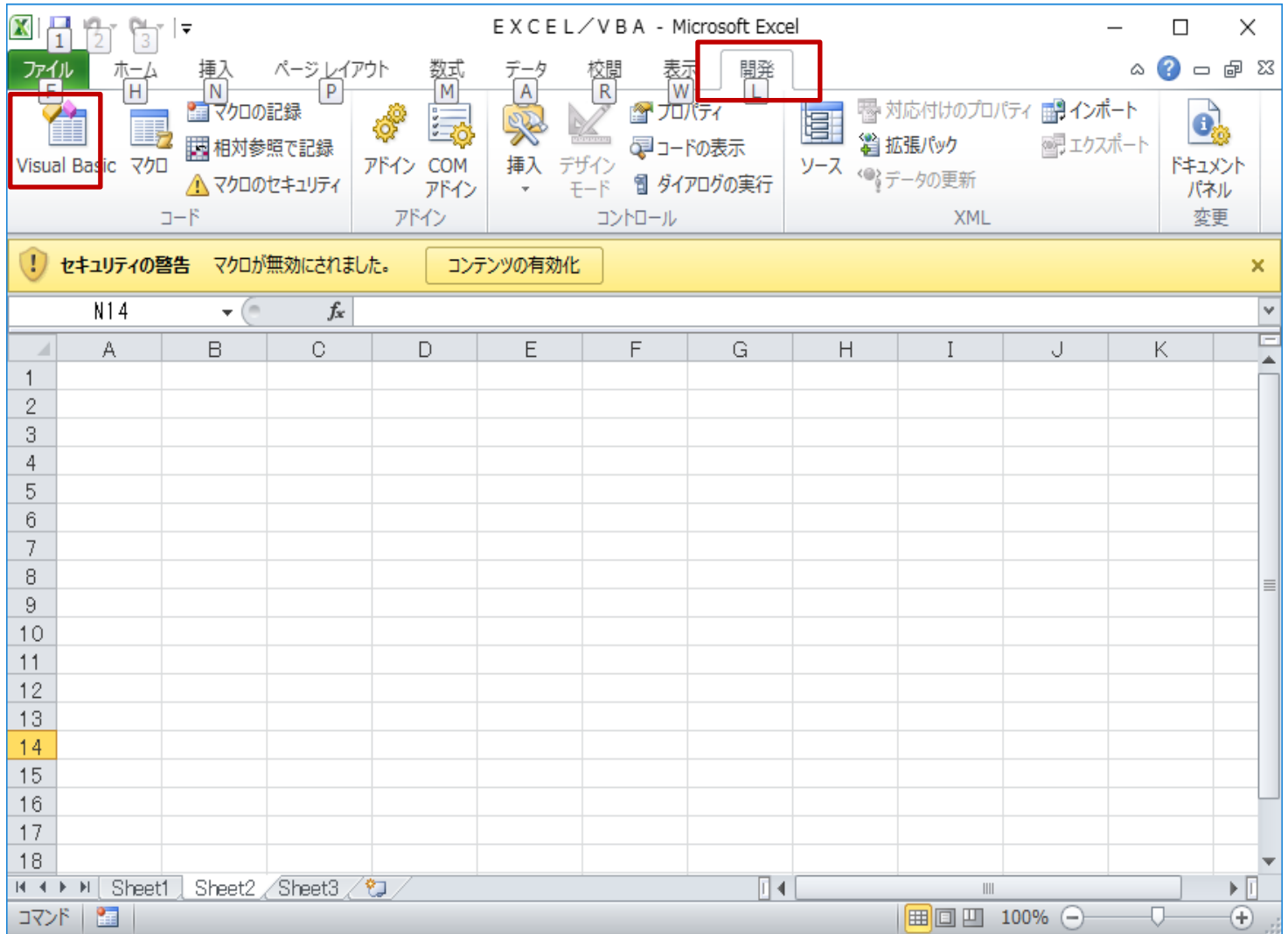


## VBAの基本操作

### 1. VBAの開発画面を表示する。

- ① 「開発」タブをクリックすると、「VisualBasic」タブが表示される。
- ② 「VisualBasic」タブをクリックする。

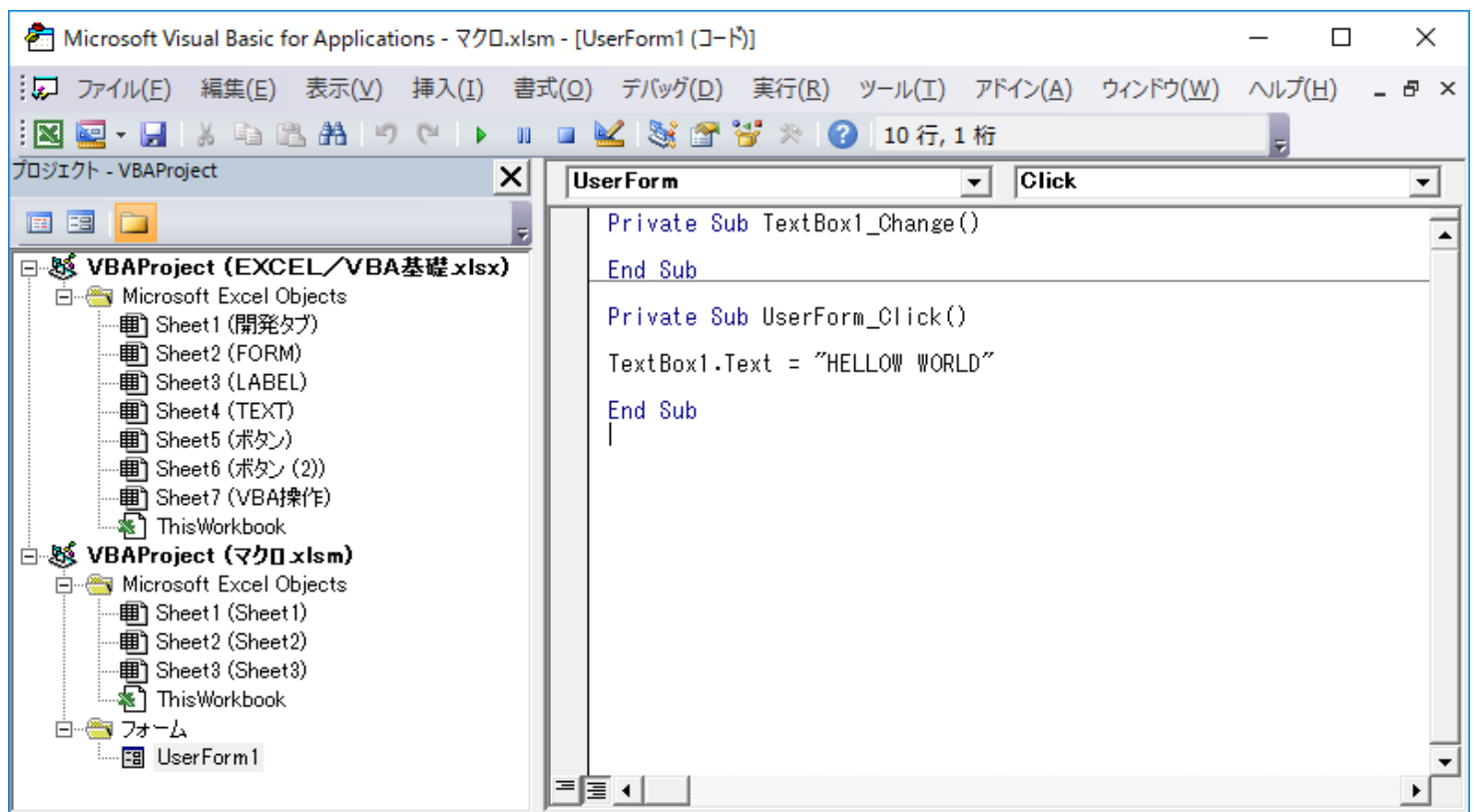


VBAの開発を行うときは、頻繁に表示するパネルを切り替えることになります。

以下のパネルの表示方法をしっかり覚えておきましょう。

- ①プロジェクトエクスプローラの表示
- ②ユーザフォームの画像表示
- ③ユーザフォーム、コントロールのプロパティの表示
- ④スクリプトの表示
- ⑤コントロールの表示

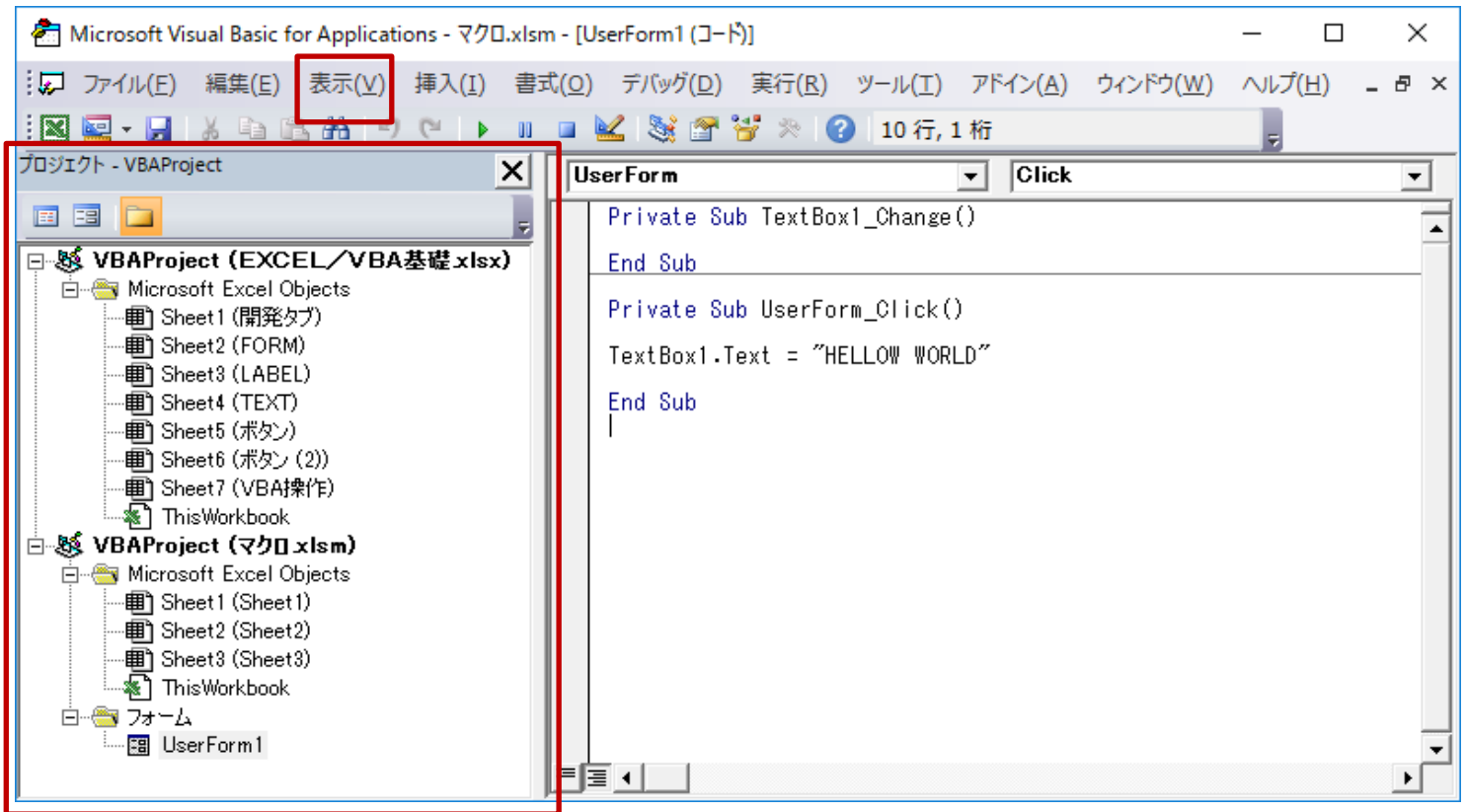
## 2. VBAの開発画面が表示されます。



## 2. プロジェクトエクスプローラの表示

「表示→プロジェクトエクスプローラ」をクリックする。

左ボックスにプロジェクトエクスプローラ（赤枠の部分）が表示されます。



プロジェクトエクスプローラに表示される内容

### VBA Project

- ( ) 内にEXCELのブック名が表示されます。
- Microsoft Excel Objects
  - オブジェクトの一覧が表示されます。
  - Excelブックに作成されたシート名など。
- フォーム
  - ユーザフォームの一覧が表示されます。

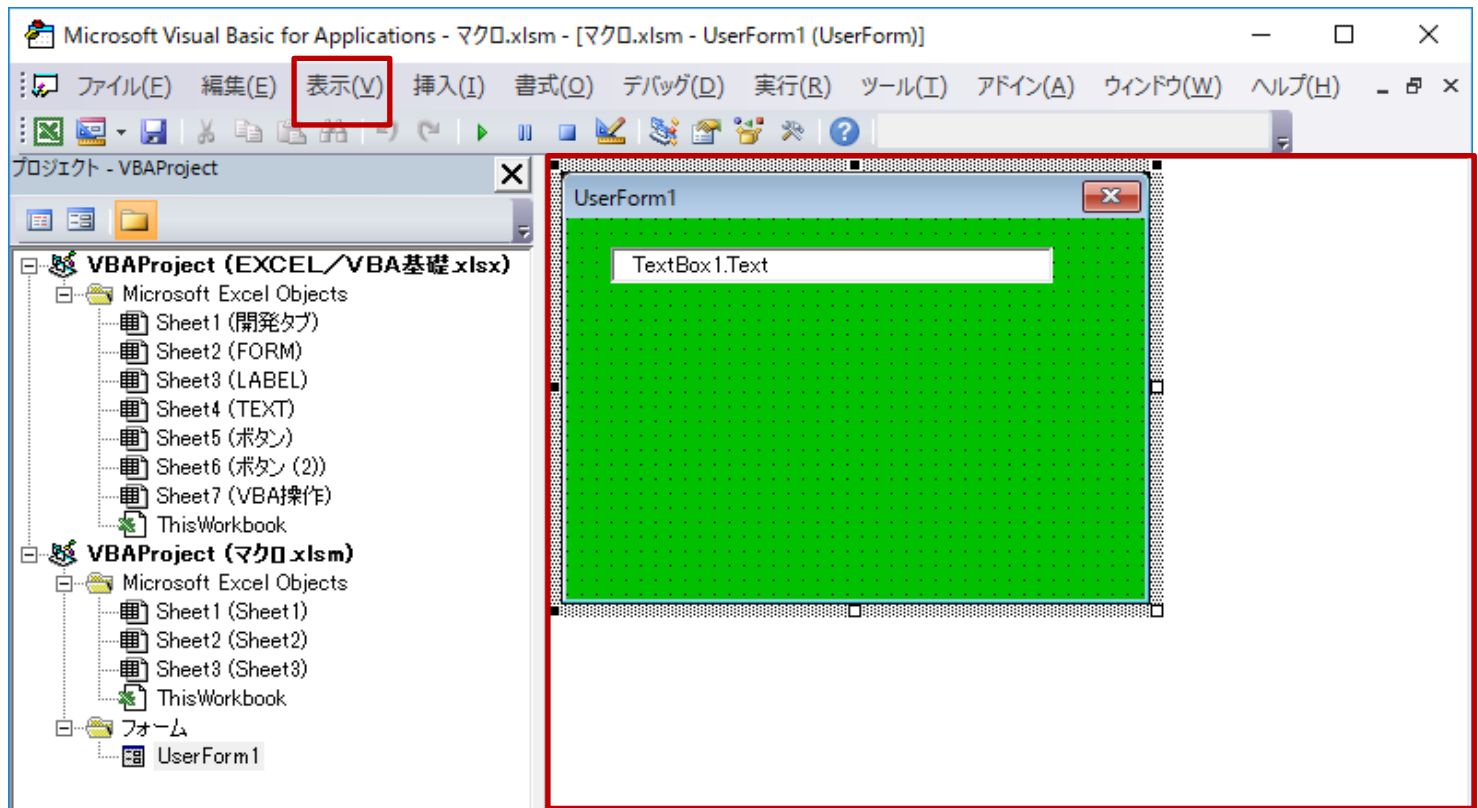
### 3. ユーザフォームの画像を表示する。

①表示するユーザフォームを選択する。

「UserForm1」をクリックする。

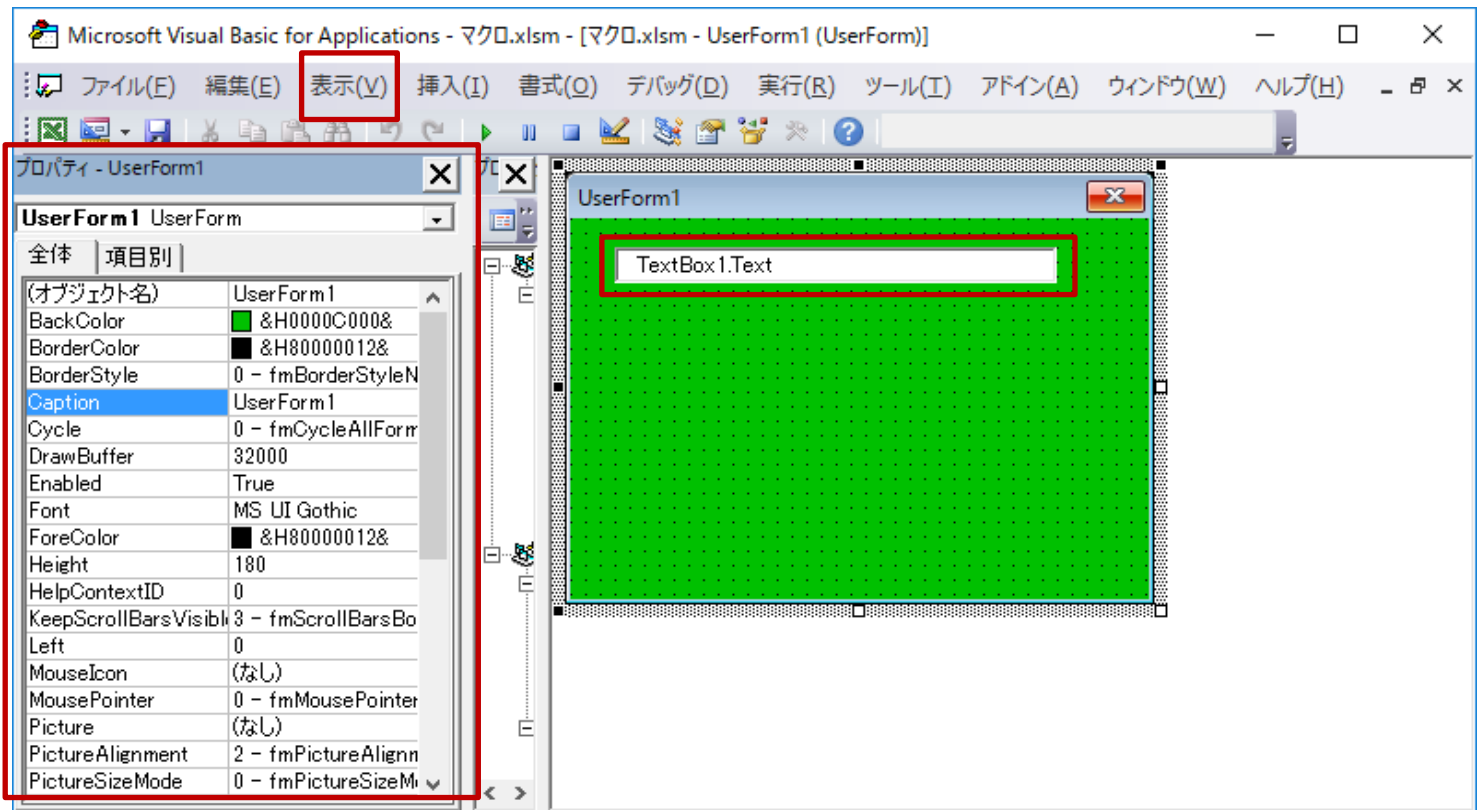
②「表示→オブジェクト」をクリックする。

右ボックスにユーザフォームの画像が表示されます。（赤枠の部分）

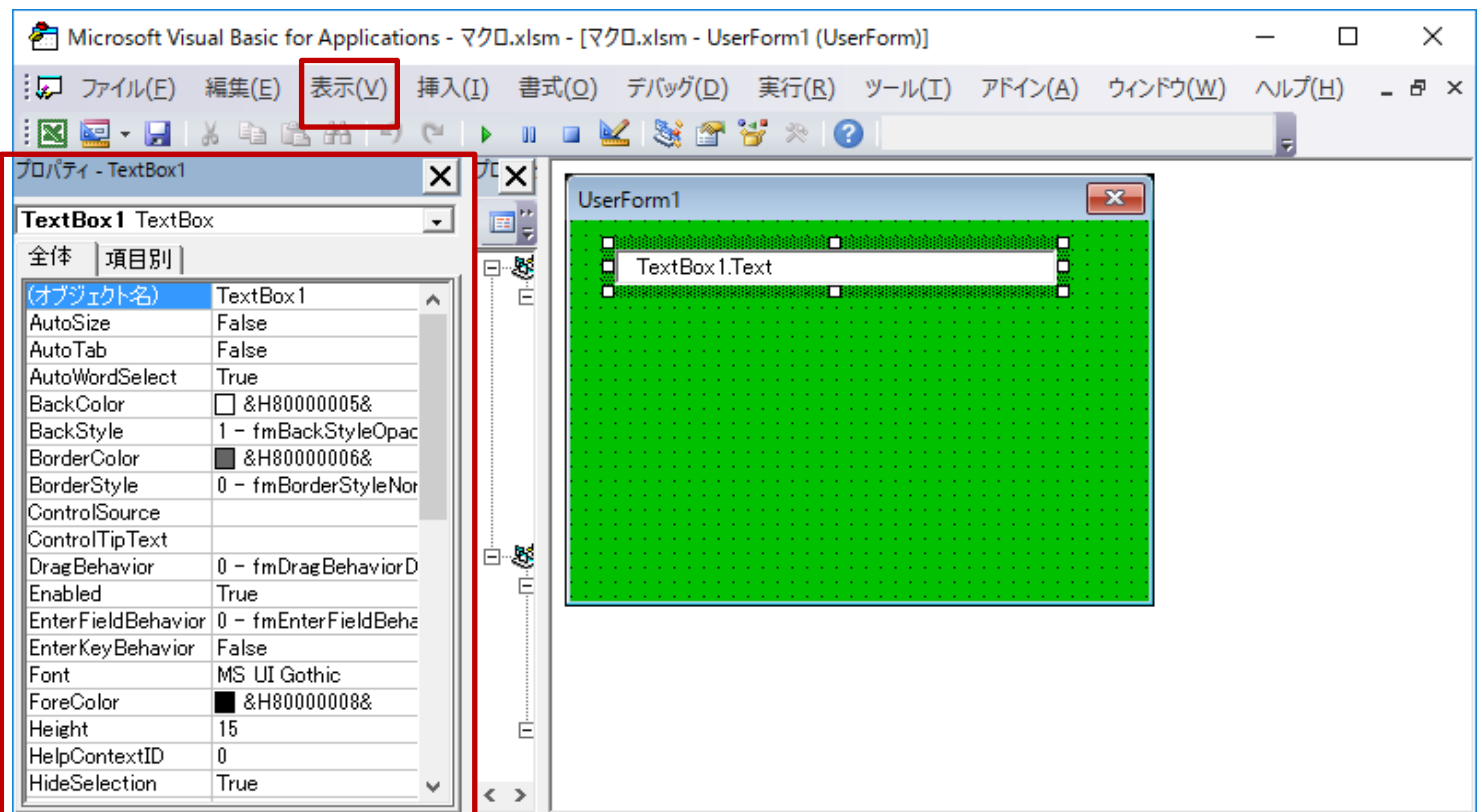


#### 4. フォームのプロパティを表示する。

- ① ユーザフォームを選択する。  
「UserForm1」をクリックする。
- ② 「表示→プロパティウィンドウ」をクリックする。  
左ボックスにプロパティウィンドウが表示されます。

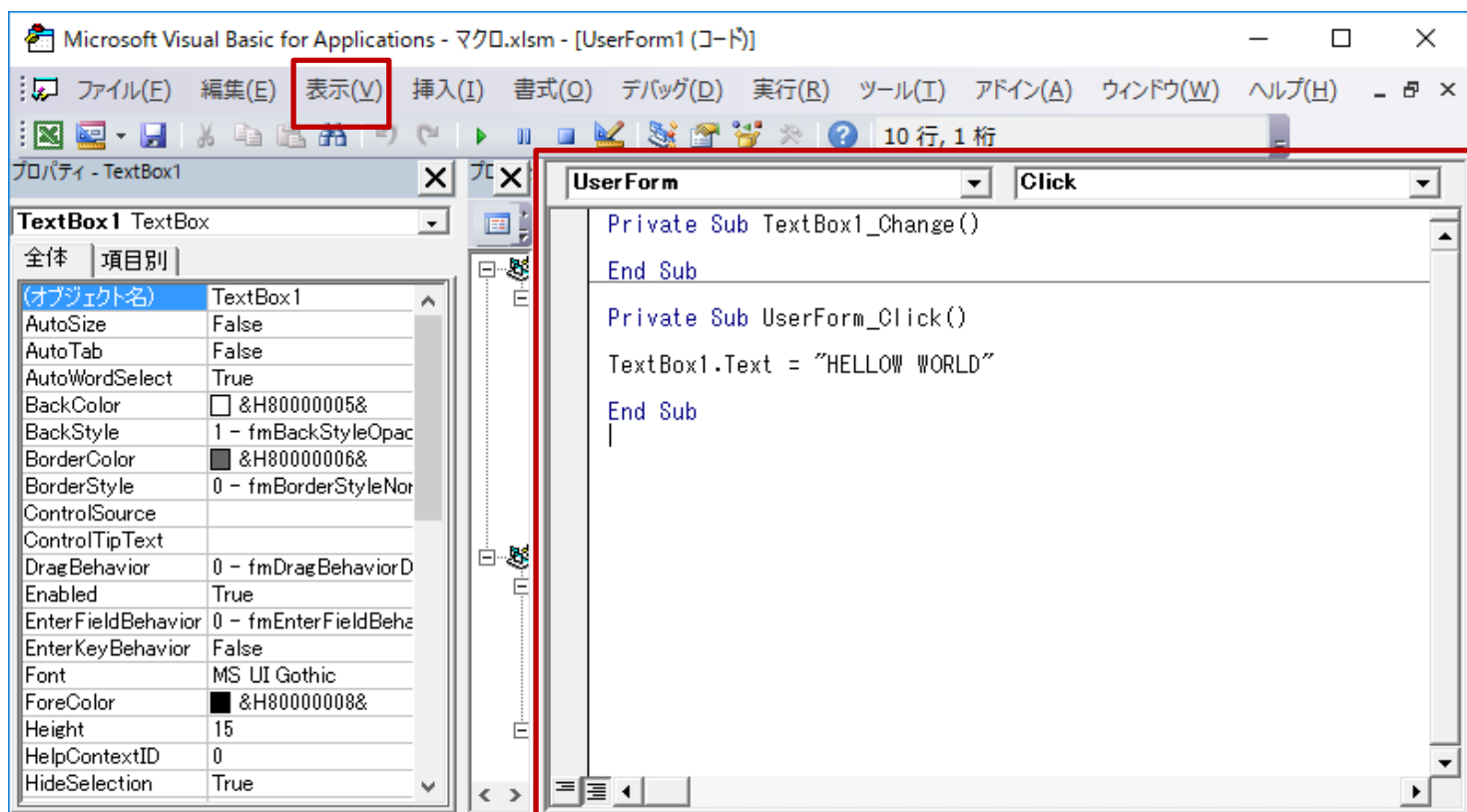


- ・ プロパティウィンドウは、オブジェクト (UserForm1など) のプロパティを設定する画面です。プロパティは、色、サイズ、表示文字などオブジェクトの属性です。
- ・ 右のUserForm1には、TextBox1が配置されています。  
TextBox1のプロパティウィンドウを表示するには、  
「TextBox1」をクリック→「表示→プロパティウィンドウ」をクリックで表示されます。  
上部にオブジェクトの名称 (TextBox1) が表示されます。



## 5. スクリプトの表示

- ① ユーザフォームを選択する。  
「UserForm1」をクリックする。
- ② 「表示→コード」をクリックする。  
右ボックス（赤枠の部分）にスクリプトが表示されます。

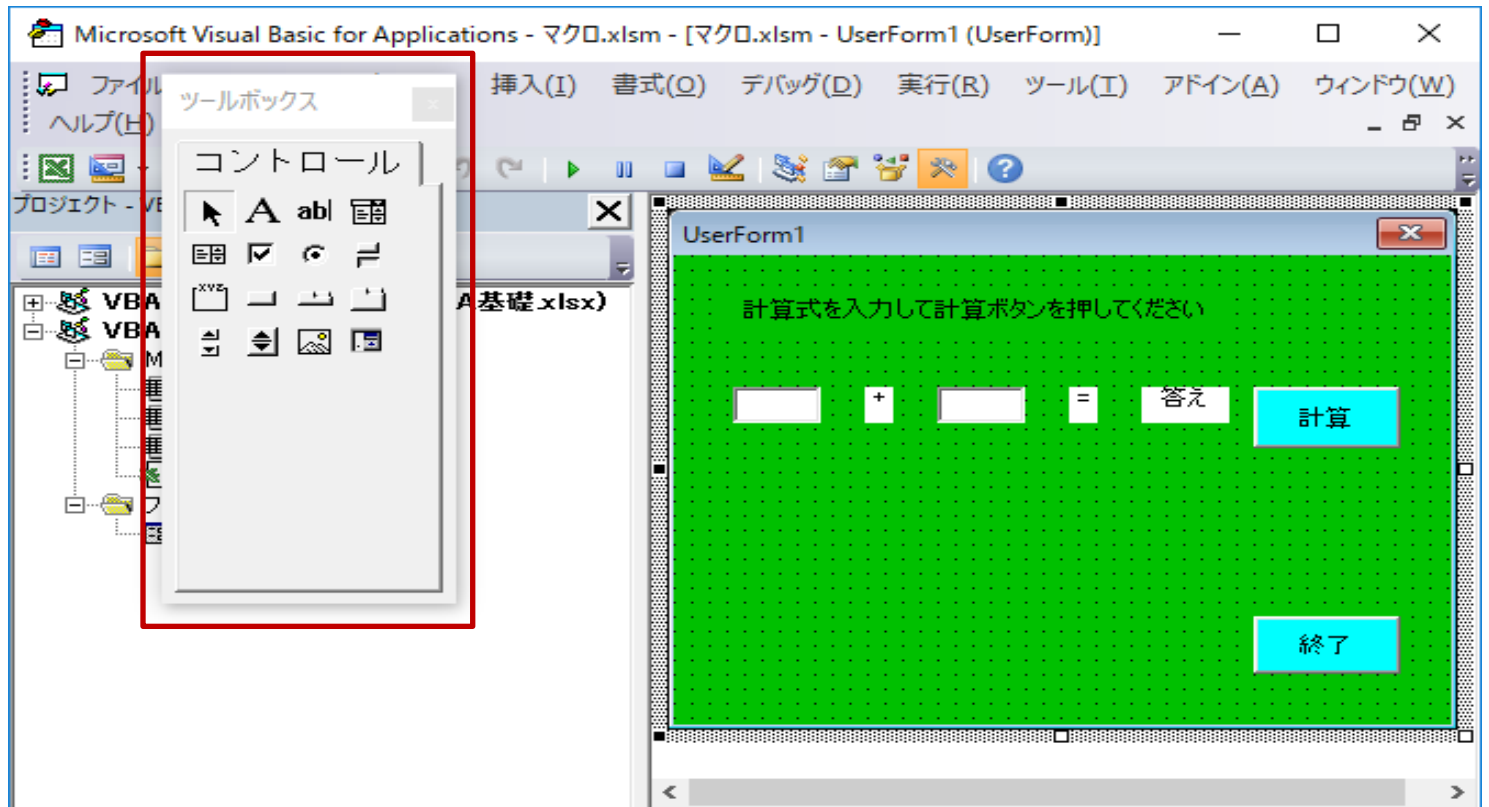


- ・ スクリプトは、手続きを記述するものです。
- ・ 画面に表示された下の3行の部分を解説します。
  - ① Private Sub UserForm\_Click()  
UserForm\_Clickは、ユーザフォームがクリックされたときに、実行される手続きの開始です。
  - ② TextBox1.Text = "HELLOW WORLD"  
「HELLOW WORLD」という文字がテキストに表示されます。  
TextBox1.Textは、テキストボックスに表示される文字のプロパティです。  
"HELLOW WORLD"は、文字常数です。文字常数の最初と最後を「"」で括ります。
  - ③ End Sub  
手続きの終了です。

VBAは、イベントという事象が発生したときに、イベントに対応するスクリプトが実行されます。例えば、終了ボタンをクリックしたときに、終了ボタンをクリックしたイベントが発生して終了ボタンに対応するスクリプトが実行されて、処理を終了する等のことです。通常はボタンをクリックしたイベントに対応したスクリプトを記述します。

## 6. ツールボックスの表示

ユーザフォームの画像が表示された状態で、「表示→ツールボックス」をクリックする。  
ツールボックス（赤枠の部分）が表示されます。



ツールボックスは、ユーザフォームに配置するコントロールを選択して、配置するときに使用します。  
表示されたコントロールからアイコンをクリックして選択します。

ユーザフォームの画像上の配置したい位置にカーソルを当ててクリックした状態で囲い、  
クリックを離せば配置されます。